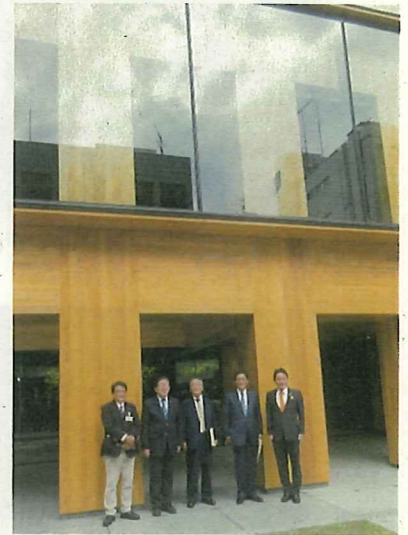


もり まち  
森林を活かす都市の木造化推進議員連盟  
現地視察（大林組 Port Plus）について  
【視察報告】

1. 日 時：令和4年10月24日（月）
2. 視察先：神奈川県横浜市  
大林組次世代研修施設（Port Plus）

3. 出席議員

金子 恭之	幹事長（衆）
小島 敏文	事務局長（衆）
八木 哲也	幹事（衆）
小寺 裕雄	衆議院議員
柿沢 未途	衆議院議員



正面入口

4. 概要説明等及び意見交換

【(株)大林組（設計・施工者）から概要説明等】

- ・ 構造部材を全て木材で構成した純木造の11階建て高層ビルであり、1階は日本初の木造の3時間耐火構造としている。
- ・ 十字型ユニット、CLTと合板を組み合わせた遮音床などを新たに開発し、採用している。
- ・ 木造化により、軽量のため既設の基礎の再利用が可能であったほか、施工中の騒音や粉じんが少ないというメリットもあった。
- ・ 内装材や造作材にも木質部材を多く用いている。
- ・ 9階のセミナールームは、被覆や不燃材含浸処理をせずに内装制限をクリアしているため、木の香りが強くなっており、こうした木質空間の効果が健康経営に貢献することを期待している。
- ・ カーボンニュートラルへの貢献に向けて、木材利用のみならず省エネやZEBの拡大、再生可能エネルギー推進等にも取り組んでいる。



金子幹事長ご挨拶



(株)大林組 賀持 設計本部長  
ご挨拶





9階セミナールームでの概要説明



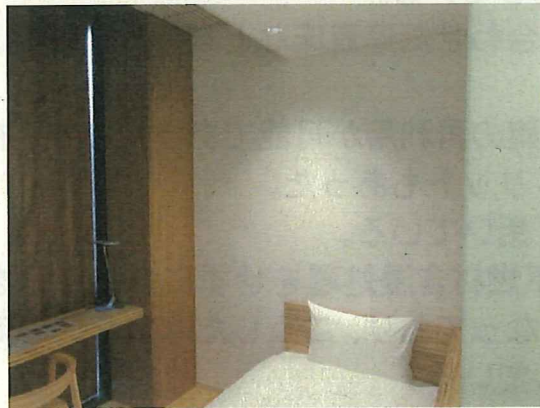
8階リラクゼーションルームの様子



構造等の説明



カフェスペースの様子



宿泊室の様子



十字型ユニットの模型による説明



施工状況等の説明



階段・備え付けベンチ



### 【意見交換における主な質問・意見等】

- ・ 公共建築物について、自治体がコストの面から木造化を選択しないことがあるが、コストの問題について何か考えはあるか。  
(大林組回答) コストの低減に向けて木材・木質部材の生産・流通のインフラを整備する必要があるとともに、木造化・木質化による居住者への効果や環境への効果を定量化できれば、一定程度のコスト高は許容されるようになるのではないかと感じる。
- ・ 特に横浜市は森林環境譲与税の譲与額が大きく、積極的に活用してもらいたい。
- ・ Port Plus には外材も使われているが、どのような意図か。  
(大林組回答) 基本的には国産材としていたが、入手できる材が限られたこと、将来的な木材利用の取組も見据えて外材の調達も経験しておきたかったことなどにより一部外材を用いている。
- ・ 国で取り組んでももらいたいことはあるか。  
(大林組回答) 川上から川下までをスムーズに回していくためには、国全体で取り組むべき。Port Plus 建設においても部材の生産・流通が非常に非効率であったこともあり、まだうまく循環できていないと感じる。



意見交換の様子



小島事務局長ご挨拶